

弄清亭

東求堂のすぐ裏にあるこの建物は、足利義政(1436~1490 年)によって当初、香を楽しむために作られました。日本で香は、何世紀にもわたって清めの儀式やリラックス、娯楽などに使われてきました。

弄清亭は、1895 年に再建され 1996 年に増築されました。室内の屏風は日本画家奥田元宋(1912~2003 年)による四季折々の壁画を特徴としており、1996 年に完成しました。広島生まれの元宋は、昭和(1926~1989 年)の最も代表的な日本画家の一人となりました。日本画(日本様式の絵画)は、1900 年以降に日本の伝統的な慣習や技法を踏襲して描かれた絵画のことです。奥田氏の四季の絵は鮮やかで躍動感があり、色彩の淡彩を通して奥行きを感じさせます。

壁画の一つには鮮やかに花開いた牡丹が描かれており、また、別室の壁画には、桜が咲き誇る木々とその陰影がついた、春の奥入瀬溪谷（青森県）様子が描かれています。最も印象的な壁画は秋を描いたもので、大胆な地形と、見事な色彩のカエデの木々が緑色の池の周囲を囲んだ様子が描かれています。庭に面した扉が開くと自然の光が差し込み、その色彩が輝くように見えます。弄清亭は通常一般公開されておりません。